

# 美術科 学習指導案

学 年	内 容	指 導 者
第 1 学年	彫 塑	和歌山市立城東中学校 濱野 加奈

## 題材 【 粘土でつくる 】 I'm a monster!! ～怪獣になっちゃった!～

1. 日 時 2014年11月15日(土) 第4限

2. 学級・場所 1年1組・美術室

### 3. 題材設定の理由

第1学年の生徒たちは、中学生になってから夏休みに入るまで、絵画表現の基礎である、「スケッチ」「デッサン」「水彩画」を通して写実表現の学習をしてきた。その次の段階の学習として、学習指導要領にあるように、生徒たちの感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力を育てたいと思い、粘土を使った構想表現を題材に設定した。「ある朝、目がさめたら、自分が怪獣に変身していた。」というテーマで、想像し、アイデアスケッチを描き、そこから立体作品にしていく、というプロセスにおいて、「今の自分」を見つめ直して考える機会をもたせ、作る楽しさを味わわせたい。また、成形が容易で着色も可能な合成粘土を使って制作することにより、形や色彩などによる表現の技能を身に付けさせ、個々の意図に応じて創意工夫し、楽しく美しく表現する能力を育てていきたい。

### 4. 生徒観

本校の1年生は、美術の授業では前向きに取り組み、楽しんでいる姿が多く見られる。しかし、途中で集中力が切れてしまい周りと話したり遊んだりする子も何人かいるため学級全体に対する一斉指示が聞けず同じ説明を何回もしなければいけないことがでてくる。実技作業に取り組んでいく際に生徒一人ひとりが自分の作業内容を理解し、見通しを立てて活動できるようにするためには、視覚的な指導方法を考え理解できるようにし、それでも支援が必要な生徒には個別指導を行う。

### 5. 学習目標・ねらい

- (1)自分を見つめ直し、イメージをふくらませて空想の世界を表現できるようにする。
- (2)平面のイメージから立体作品に制作していくための見通しをたてられるようにする。
- (3)自分の気持ちを作品に表現できるように工夫する。
- (4)粘土の特性を理解し、計画的に制作できるようにする。
- (5)互いの作品を鑑賞し、それぞれの良さを認め合う力を育てる。

### 6. 学習計画(全11時間)

- |     |  |             |
|-----|--|-------------|
| 第一次 | 彫塑の基礎 塑造(粘土の種類・性質・制作の道具・手順)について 学習する。        | (1時間)       |
| 第二次 | アイデアスケッチ ワークシート「I'm a monster!!～怪獣になっちゃった!!」 | (1時間)       |
| 第三次 | 粘土作品の完成予想図の制作(前後・左右を予想して描く)                  | (2時間)       |
| 第四次 | 粘土作品の制作(あらづけ→肉付け→細部)                         | (4時間 本時4/4) |
| 第五次 | 着色・塗装 水彩絵の具で着色、水性ニスでしあげる。                    | (2時間)       |
| 第六次 | お互いの作品を鑑賞し、感想をプリントにかく                        | (1時間)       |

## 7. 評価

評価の観点	題材の評価基準
①美術への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体を意識し、表現しようと取り組む</li> <li>・自分のイメージをより具体的に表現するために、参考になるものを探すなど、工夫する</li> <li>・自分の作品を大切にし、効率よく、ていねいに制作する。</li> </ul>
②発想や構想の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマにそって想像をふくらませ、空想の世界を描く。</li> <li>・平面に描いたイメージを完成を予想して描くことができる。</li> <li>・完成を予想して描いたスケッチから、立体作品に作り上げることができる。</li> <li>・自分のイメージにあった着彩を工夫できる。</li> </ul>
③創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のイメージをアイデアスケッチに表現できる。</li> <li>・完成を予想したスケッチを立体的に描くことができる。</li> <li>・合成粘土の特性を理解し、立体作品を表現する。</li> <li>・自分のイメージにあった動きや、表情の表現を工夫した成形・着彩ができる。</li> </ul>
④鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品をあらゆる方向から鑑賞し、工夫を味わうことができる。</li> <li>・作品のイメージと完成予想を関連させて鑑賞し、その面白さを発見し、味わうことができる。</li> </ul>

## 8. 本時の目標・ねらい

- ・粘土の特性をよく理解し、道具を効果的に使い、表現を工夫していく。
- ・粘土の仕上げになるため今まで作ったものを見直し、細かいところなどを手直しし、色つけまでの最終段階を仕上げる。

## 9. 準備物

- (教師) 参考資料・生徒作品(粘土・アイデアスケッチ・完成予想図のワークシート)  
 ・粘土べら・粘土板(画用紙)・保存用ビニール袋など  
 (生徒) 筆記用具・粘土を細工するための道具など

## 10. 本時の展開

	学習活動	教師の役割など	評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の時間と本時の展開について確認する。</li> <li>○完成までに何が足りないのか確認する。</li> <li>○スケッチを見て最終確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机のセッティングができているか、粘土の配分の見通しがたっているか確認させる</li> <li>○ほとんど完成出来ている生徒にはもっとつきつめて制作するようにうながす。</li> </ul>	①効率よく、ていねいに制作する

<p>展開</p>	<p>○計画的に制作する。</p> <p>*粘土の配分に注意しながら、ていねいに制作する。</p> <p>*へらなどの道具を安全に、効果的に使う。</p>	<p>○机間指導をし生徒個々に合わせた指導を行う。</p> <p>○粘土の特性を生かし、どの部分から制作していくか工夫させる</p>	<p>②自分のスケッチから立体を想像する</p> <p>③自分のイメージに合った動きや表現を工夫する</p>
<p>まとめ</p>	<p>○本時の反省をし、次時の制作予定を立て、作品や道具をかたづける。</p> <p>*制作した粘土は次回までに乾かすため、袋に入れずに提出する。</p> <p>*余った粘土は粘土袋に入れて提出する</p> <p>*へら、水入れ、ぞうきん、粘土板、プリント類を、列ごとに集める。</p> <p>*机の上やまわりがきれいか確認する。</p>	<p>○本時の自己評価をさせ次時の目標を立たせる</p> <p>○本時で完成しなかった生徒に次回までの予定をたたせる</p>	<p>④スケッチと関連させて作品を自己評価する</p> <p>①使用した道具・作品をきちんとかたづける</p>